

2024年度 保育園の自己評価・考察・課題 (2025年3月末)

2024年度の保護者アンケートは、3月に実施致しました。

保護者アンケートの結果から、ヒッポ保育園としての自己評価をしました。

今回の保護者アンケートは、かなり辛辣な結果として受け止めました。

特に、不審者対策について保育園としての取り組みに、保護者が少なからず、不安を感じているということが、受け取れます。

ヒッポ保育園の建物は、賃貸物件ですので、保育園独自で改築というのは難しいのですが、できる範囲での対策、保護者が安心出来るような取り組みを考える必要があります。また、いざというときの保育士の行動、どのように子供たちを守る行動をとるか、がとても重要です。2025年度は、不審者侵入時に取るべきより安全な行動を検証し、実践練習に努めたいと思います。

そのほかアンケートから感じたことは、

近年、保護者は、若い世代になっています。その為、子育ての経験が浅く、子どもの成長とともに関わり方が変わるという事が、解っていないというのが、現実であると思います。また、解っていないことがわかっていない！その為、自分の子育てに対しての迷いや、問題意識も発生しないので、「どうしたらいいのか？」という発信もできません。

私達保育士も、保育園での子供たちとの関係づくりで日々が過ぎていきます。

こうした保護者との間に、距離感を感じています。

この距離感は、年々、深刻になっているのではないのでしょうか？

近年の保護者は、保育園で楽しく過ごしてくれればよい、という直近的視野(?)の考え方が多いように思います。「こんな子供に育て欲しい！」という保護者の思いがみえません。いえ、保育園に、それを期待していないのかもしれませんが。

もしそうだとすると、残念なことです。

しかし、保育園の方から、「・・・どうですか？」と尋ねたり、問題を提起すると「・・・じつは、困っているんです・・・」という保護者の本音が聞けたりもします。

発信がないのは、子育てに対して、将来の展望がわからず、その時、その場の子どもの姿に翻弄されていて、どうしたらいいのだろう？と考える余裕が持てないのが現実なのかもしれません。このように考えますと、保護者からの発信を待つのではなく、保育園から、様々な発信をして、情報を提供していくことが、今の若い保護者にとって、必要なことではないかと考えます。

私達保育園は、子供たちが登園してから、降園するまでの時間を共に過ごしています。

その時間は、こども達が家で保護者と過ごす時間よりもはるかに長いのです。

だからこそ、「保育園の役割は重要で、責任重大」と考えます。

が、そのようなことは、保護者から期待されていないのだとすれば、それこそが、深刻なことかもしれません。

子どもの健全な成長を考えた時、保育園としての役割とその必要性を、保護者に伝え、信頼してもらえるような働きかけをしていかなければなりません。

保護者との信頼関係の構築について考えます。

ハード面では、有形的な環境ということでしょうか？

こども達が、安全で、保護者が安心して預けられるような環境づくりを常に考えていくこと先にあげた不審者対策の環境作りも、その一つです。

ソフト面では、保育の内容、職員の質について考えます。

保育士は、それぞれ、各自の保育感を持っていますが、大事なことは、子供を主体に考えること、子どもが最優先であることが一番大事なことです。

保育士ひとりひとりが高い専門性と豊かな資質を持つことは必至なことで、また自分自身の力量をさらに向上させていく意識を持って仕事に励んで欲しいと思います。

自分自身の現状に甘えることなく、自己を厳しく見つめ、社会人として、保育人としても切磋琢磨して、研鑽を積むこと、さらには、保育園としての役割を意識して、保護者に発信していくことを、常に考えなければなりません。

今、日本は少子化の時代です。少子化は、深刻です。

少子化を何とか食い止めようと、様々な政策が打ち出されています。その政策についての私見はありますが、今はそれを述べるのではなく、

この少子化の時代に、小規模保育園が、どう生き延びるかを、考えなければなりません。

生き延びるための対策

数年前に、静岡市は待機児童ゼロの政策を打ち出し、小規模保育園が乱立しました。その結果、今は、その小規模保育園が淘汰されています。

他園との比較の中で、よりよい環境の提供、職員の質、保育活動の質は、最低限の必要不可欠条件です。これは、どの保育園も当たり前に考えていることから・・・

だからこそその保育士の質、保育活動の質、が問われます。

- ① 職員一人一人が、自分自身の現状に甘えることなく、自己を厳しく見つめ、社会人として、保育人としても、切磋琢磨して、研鑽を積むこと
- ② 保育園としての役割を意識して、高い専門性を持って保護者に発信していくこと

小規模保育園が生き延びるために、厳しい局面を迎えたと感じます。

この局面を危機感としてとらえ、正規・時給全職員が、質の向上を考えて取り組んでほしいと願います。

